

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 2 月 13 日 (2020.2.13)

【公表番号】特表 2019-505511 (P2019-505511A)

【公表日】平成 31 年 2 月 28 日 (2019.2.28)

【年通号数】公開・登録公報 2019-008

【出願番号】特願 2018-534782 (P2018-534782)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 K 31/713 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/711 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 19/02

A 6 1 K 31/713

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 P 35/02

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 P 17/00

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 31/711

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 1 月 2 日 (2020.1.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象における T 細胞疲弊に関与する悪性疾患（B 細胞悪性腫瘍を除く）の治療用の、治療有効量の C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤。

【請求項 2】

対象における自己免疫疾患または炎症性疾患の治療用の、治療有効量の C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤。

【請求項 3】

前記悪性疾患が固形腫瘍、T 細胞悪性腫瘍または骨髄性悪性腫瘍である、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 4】

前記固形腫瘍が、黒色腫、肺癌、腎細胞癌、前立腺癌、乳癌、卵巣癌、頭頸部癌、結腸腺癌、線維肉腫、子宮頸部癌、食道癌、直腸癌、口腔癌、肝臓癌、および膵臓癌からなる群から選択される、請求項 3 に薬剤。

【請求項 5】

前記自己免疫疾患または炎症性疾患が、多発性硬化症、潰瘍性大腸炎、クローン病、関節炎、および狼瘡からなる群から選択される、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 6】

前記自己免疫疾患または炎症性疾患が慢性容態である、請求項 2 または 5 のいずれかに記載の薬剤。

【請求項 7】

前記自己免疫疾患または炎症性疾患が急性容態である、請求項 2 または 5 のいずれかに記載の薬剤。

【請求項 8】

前記 C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、ポリヌクレオチド剤である、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 9】

前記 C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、ポリヌクレオチド剤である、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 10】

前記ポリヌクレオチド剤が、アンチセンス、s i R N A、マイクロ R N A、リボザイム、および D N A ザイムからなる群から選択される、請求項 8 または 9 のいずれかに記載の薬剤。

【請求項 11】

前記 C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が抗体である、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 12】

前記 C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が抗体である、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 13】

前記抗体が、前記 C D 8 4 の細胞外部分の少なくとも 1 つのエピトープに結合する、請求項 11 または 12 のいずれかに記載の薬剤。

【請求項 14】

前記抗体が C D 8 4 中和抗体である、請求項 11 ～ 13 のいずれか 1 項に記載の薬剤。

【請求項 15】

前記 C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、前記 T 細胞上のプログラム細胞死リガンド 1（P D - L 1）、プログラム細胞死 1（P D - 1）、細胞傷害性 T リンパ球抗原 - 4（C T L A - 4）、リンパ球活性化遺伝子 3（L a g - 3）、キラー細胞レクチン様受容体 G 1（K L R G 1）、および／または 2 B 4 のうちの任意の 1 つの

活性または発現を下方制御するものである、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 16】

前記治療有効量の C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、前記 T 細胞による I L - 2、I L - 4、I F N γ の産生、および／または C D 1 0 7 の発現の増加に関連する前記 T 細胞疲弊を逆行させるものである、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 17】

対象における T 細胞疲弊に関与する悪性疾患の治療用の、治療有効量の S L A M F 1 の活性または発現を減少させることができる薬剤 (C D 8 4 の活性または発現を減少させることができる薬剤を除く)。

【請求項 18】

前記悪性疾患が B 細胞悪性腫瘍である、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 19】

前記 B 細胞悪性腫瘍が、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫、B 細胞慢性リンパ球性白血病 (B - C L L) / 慢性リンパ性白血病 (C L L)、慢性リンパ球性白血病 / 小リンパ球性リンパ腫、慢性骨髄性白血病 (C M L)、節外性辺縁帯 B 細胞リンパ腫 - 粘膜関連リンパ系組織リンパ腫、濾胞性リンパ腫、マントル細胞リンパ腫、節性辺縁帯 B 細胞リンパ腫、バーキットリンパ腫、毛様細胞白血病、原発性中枢神経系リンパ腫、脾性辺縁帯 B 細胞リンパ腫、リンパ球形質細胞性リンパ腫、縦隔原発 B 細胞リンパ腫、多発性骨髄腫、急性リンパ球性白血病 (A L L)、急性リンパ芽球性プレ B 細胞白血病、形質細胞性白血病、プレ B 細胞白血病、早期プレ B 細胞白血病、およびプレ B 急性リンパ芽球様白血病からなる群から選択される、請求項 18 に記載の薬剤。

【請求項 20】

前記 S L A M F 1 の活性または発現を減少させることができる薬剤がポリヌクレオチド剤である、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 21】

前記ポリヌクレオチド剤が、アンチセンス、s i R N A、マイクロ R N A、リボザイム、および D N A ザイムからなる群から選択される、請求項 20 に記載の薬剤。

【請求項 22】

前記 S L A M F 1 の活性または発現を減少させることができる薬剤が S L A M F 1 抗体である、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 23】

前記 S L A M F 1 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、前記 T 細胞上のプログラム細胞死リガンド 1 (P D - L 1)、プログラム細胞死 1 (P D - 1)、細胞傷害性 T リンパ球抗原 - 4 (C T L A - 4)、リンパ球活性化遺伝子 3 (L a g - 3)、キラー細胞レクチン様受容体 G 1 (K L R G 1)、および／または 2 B 4 の活性または発現を下方制御するものである、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 24】

前記治療有効量の S L A M F 1 の活性または発現を減少させることができる薬剤が、前記 T 細胞による I L - 2、I L - 4、I F N γ の産生および／または C D 1 0 7 の発現の増加に関連する前記 T 細胞疲弊を逆行させるものである、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 25】

化学療法薬、抗体免疫療法、および／または放射線療法の使用をさらに含む、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 26】

化学療法薬、抗体免疫療法、および／または放射線療法の使用をさらに含む、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 27】

化学療法薬、抗体免疫療法、および／または放射線療法の使用をさらに含む、請求項 17 に記載の薬剤。

【請求項 28】

前記対象がヒト被験体である、請求項 1 に記載の薬剤。

【請求項 29】

前記対象がヒト被験体である、請求項 2 に記載の薬剤。

【請求項 30】

前記対象がヒト被験体である、請求項 17 に記載の薬剤。